第 4 回　ECE WG 会合議事録

日時：1 月 18 日（金）　9:30～11:00
場所：日本工学会事務所
出席者（順不同、敬称略）：
　　主査　　川島一彦（東京工業大学大学院　教授）
　　委員　　中崎良成（NEC ラーニング　執行役員フェロー、基礎分野）
　　永田一良（日立製作所研究開発本部　技術主管、日本技術士会）
　　事務局　柳川隆之
配布資料：
ECE07-4-1　第 3 回 ECE WG 議事録（案）
ECE07-4-2　第 2 回運営会議議事録（案）
ECE07-4-3　ECE に関する検討（中間報告）（川島主査）
ECE07-4-4　平成 19 年度 1 月～3 月期の検討方針（案）（川島主査）
ECE07-4-5　2025 年の日本と産業界が求める人材像（産業競争力懇談会）

議　事
１．前回議事録確認
10 月 12 日に開催された第 3 回 ECE WG 会合の議事録案を原案通り確認した。
２．運営会議の報告
まず、12 月 25 日に開催された日本工学会 CPD 協議会の運営会議に提出された当 WG の検討状況の報告書が川島主査から説明された。続いて、この運営会議における ECE に関する議事の概要が事務局から報告された。
川島主査から、次のような補足説明があった。
＊ECE のイメージ合わせが先ず必要である。
＊COCN のプロジェクトは産業界から大学への要求であるが、企業に就職した社員をどう育ててゆくかの検討も必要である。COCN ではこの点も検討しているか桑原協議会長に尋ねてみる。
＊企業調査は今年度はヒアリングの形で行うことを考えている。
３．ECE のイメージと中間報告の審議
前項の報告をもとに、ECE のイメージについて話し合いが行われた。その概要は次の通りである。
＊CPD はテーマありきの受動的なもので数時間程度というイメージだが、ECE は目的を持った養成コースで 2,3 日程度のコースというイメージだか？（永田）⇒強いニーズがあってそれに応えるという視点が必要である。（川島）
＊集中的に開くとなると、せいぜい 1 泊 2 日程度であり、1 週間本業を離れるのは難しい。たとえ業務命令でも 100%出席はできないのが現状である。（永田、中崎）
＊COCN 報告書第 18 ページの企業から見た技術者像は技術者側から見るとどう受け取れるか？（川島）⇒この人材像に異論はないが、マネジメント能力に属することである。技術者向けはどうあるべきかはイメージが湧かない。（永田）
＊例えば、「世界的に優れた自動車を作るには」というテーマについて、細かい技術の内容でなく、どういう技術が必要か、10-20 年後にはどうなるか、といった広い知識の必要性を認識するのが大切である。（永田）
＊トヨタの例を学んで自社でどうすべきかを考えるとか、材料、加工法、測定法など広い勉強を奨励する内容といったイメージが考えられる。（永田）
＊具体的なテーマのなかから共通項を見つけてゆくというアプローチもある。（川島）
＊CPD は縦割りであるのに対し、横割りの教育が必要とされるが、前回報告した組み込

みソフトの講座のようなものはよい例だと思われる。（中崎）
＊新製品など身近な課題をターゲットにして、必要な技術を横方向に展開してゆくという構成も考えられる。（中崎）
＊ECE はアクティブ参加型、課題発掘形の学習といえる。
＊企業としての視点と技術者個人としての視点は異なることに留意すべきである。（川島）
＊異業種、異人種交流も ECE のキーワードの一つである。（永田）
＊要素的テーマ、製品をイメージしたテーマ、世代を超えたテーマなど、ECE の特色ごとに 1 週間くらいのコースの事例を作るとよい。（永田）
＊平均的社員（8 割程度）とトップ社員（2 割程度）に分けた場合、後者の社員の能力向上を行うのが ECE であろう。（永田、中崎）

４．今後の検討方針

川島主査から、年度末までの検討方針が提示された。実施することは、ECE の定義を固めること、何が ECE として技術者に求められるかを示すこと、企業のニーズを調査すること、の 3 項目である。第 2 番目の ECE として何を行うかについては、各委員が分野ごとに ECE の雛形を考えてみる。企業の調査は 2 人ずつ組になってヒアリングを行い、準備として ECE のイメージと質問事項をまとめておく。この結果をもとに、3 月末に作業の継続か中止かの判断をする、という内容である。

議論の結果、各分野での ECE の雛形の構想については、まずは今回の WG 会合に出席した委員が次のような分担で試案を作り、第 5、6 回の WG 会合で議論して共通項を抽出してゆくという方法をとることになった。分野については更に追加をしてゆくことにした。

１）機械分野：永田委員
２）情報分野：中崎委員
３）土木分野：川島主査

最後に、日本工学会の技術者能力開発事業に対して、次のような意見が述べられた。
＊日本技術士会としては、昨年度までの検討結果を取り入れたいと考えている。CPD も大切であり、ポータルサイトなど昨年度の検討を続けてほしい。（永田）
＊日本工学会は過去の検討成果を公開しておくべきである。毎回、ゼロリセットになるのでは困る。（川島）
＊全体を見て、広い連携を図ることが工学会の役目である。（川島）
＊CPD 受講暦を含む経歴を納めて「私はこういう者だ」ということを示すパスポートが作れるとよい。（永田）

次回は 2 月 13 日(水)14:00-16:00 に日本工学会事務所で開催する。

以上